

今年度のトラック運送事業の生産性向上等の 取組みについて

平成30年2月28日 記者会見資料

九州運輸局 自動車交通部



生産性向上セミナー等の開催

(1)開催の趣旨

- ・物流の生産性向上を図るため、本年度は九州各県で、トラック協会との共催による、生産性向上セミナー等を開催。(右欄参照)
- ・特に、経産局、農政局とも連携を図ったことにより、多数の個別の荷主企業も参画。

(2)実施内容

- ・働き方改革の進展を目指し、トラック運送事業者や荷主企業による生産性向上及び取引条件の改善事例の共有。
- ・さらに、中継輸送の普及等に向けて、マニュアル等の情報提供。

開催状況

(生産性向上セミナー等各県トラック協会と共催)

福岡	9月20日、10月16日	佐賀	11月28日
長崎	10月19日	熊本	11月16日、1月17日
大分	6月23日、1月19日	宮崎	1月30日
鹿児島	11月17日、1月30日		

<参加人数> 総数983名 (内荷主等157名)

発表された働き方改善例 (熊本県)

- ・海上コンテナ等の荷下ろしの際、荷主企業の作業要員を増員し、荷下ろし時間が3時間短縮され、ドライバーの手待ち時間が大幅に短縮。
- ・荷主企業においても、長時間滞留の解消や出荷時間の管理改善などの効果が得られた。



発表された取引環境改善例 (宮崎県)

荷主となるJA宮崎経済連と全13の単位農協との協議・連携により、青果物の配送を「出荷前日の出荷データ確定」と「出荷時間の前倒し(午後5時→正午)」する体制に変更。これにより、ドライバーのストレス軽減、労働環境改善が図られた。

また、フェリー乗船のリードタイム確保や県外フェリーが利用可能となり、フェリー活用の信頼性確保や利用促進につながった。

取引環境・労働時間改善協議会の進捗

九州運輸局においては、本年度、県毎の「トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会」を3回開催することとしており、荷主代表等、関係機関との協議及びパイロット事業の推進(鹿児島県での事例は別添のとおり)などに取り組んでいる。

- ・次年度についても、本協議会は引き続き開催し、九州管内で2つのパイロット事業に取り組むこととしている。

実施集団

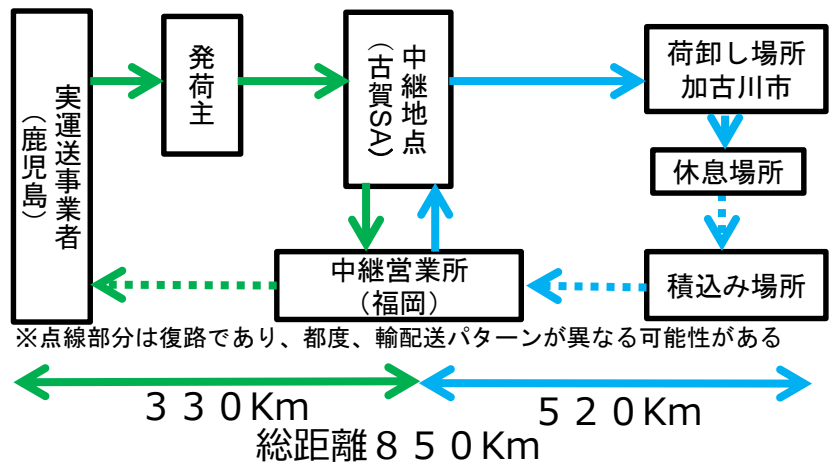
- 発荷主 A (食品加工・販売会社) 元請運送事業者 (荷主グループ会社) 実運送事業者 (車両数 100 両)
- 着荷主 a (食品加工・販売会社関西事業部) 荷種：鶏卵

課題

- ✓ 製品出荷待ちによる待機、手荷役による積み込み、荷卸しに長時間を要している。
- ✓ 遠距離輸送のため、トータルの拘束時間が16時間をオーバーしやすい。

< 改善例 >

- ◆ 手荷役からパレット荷役による積み込み・荷卸し作業の効率化。
- ◆ 中継輸送による拘束時間の削減。

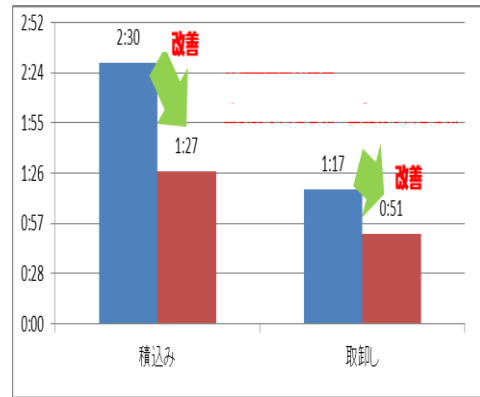


< 改善効果 >

パレット化による荷役時間短縮

積み込み 1:03分短縮 (4割減)

取卸し 0:26分短縮 (3割減)



中継輸送による拘束時間短縮

○鹿児島ドライバー 約19時間40分 (鹿児島～加古川)

○鹿児島ドライバー 約8時間00分 (鹿児島～古賀)

○中継ドライバー 約10時間30分 (古賀～加古川)

トータル 1時間10分 削減